

1997年度日本気象学会春季大会「ベストポスター賞」のお知らせ

講演企画委員会

1997年度日本気象学会春季大会（通称：気象学会つくば大会'97）では、新しい大会方式の試行として一般発表はすべてポスター形式になります。分科会方式による口頭発表と同時に、一般のポスター発表が如何に活発に行われるかが、大会運営の鍵をにぎることになります。ポスター発表に慣れていない会員や、ポスター発表をおっくうに考えている会員にもできるだけ多く参加してもらうために、「ベストポスター賞」を設けることが講演企画委員会から提案され、常任理事会で承認されました。つきましては、次のベストポスター賞の主旨にご理解を戴き、大会への多数の参加を期待します。

「ベストポスター賞」を設けること的主旨

- ・ポスター発表の活性化と内容の向上、さらに大会参加者数の増加を目的とする。

「ベストポスター賞」の評価基準

- ・ユニークで印象に残り苦勞のあとが伺えるような

ポスターを表彰する。

- ・他分野の者にも分かり易いお手本となるようなポスターを表彰する。
- ・学術的な内容も評価の対象となるが、学会賞や山本・正野論文賞のように学術水準を重点的に評価するものではない。

「ベストポスター賞」として、学生部門賞、アイデア賞等複数表彰することが提案されています。受賞者には記念品の他、賞品として次回大会懇親会のチケットの贈呈を検討中です。受賞者にはポスターの写真と内容の簡単な解説を「天気」に投稿していただくと同時に、ポスターのお手本として次大会で再度掲示していただく予定です。具体的な選考手順等については現在講演企画委員会にて検討中です。この企画が少しでもポスター発表の活性化と大会参加者数の増加につながれば幸いです。

編集後記：1996年12月号を最後に「日々の衛星画像」が打ち切りとなりました。気象衛星センター勤務であり、衛星画像に日頃から親しんでいる私にとって残念に感じます。いやむしろ、日頃から衛星画像をみるのができない人で、「日々の衛星画像」を楽しみにしていらっしゃる方、活用していらっしゃる方のほうがその感が強いかもしれません。わずかに誌面4ページの中に、ひまわりの赤外画像だけを1か月分詰め込んだコーナーでありましたが、他の論文に比較して劣らない奥の深いものであったと私は思います。

衛星画像の利点は、衛星の視野内なら陸地であろうと海洋であろうと均一なデータを得られることです。衛星画像は衛星の視野内の低気圧や前線など形成する雲システムの全容を私たちに示してくれます。多様な姿を見せる雲は、日々の天気の実況・目先の天気予想などを教えてくれます。現在、衛星画像に現われている雲を見ることで、今どのあたりで雨が降っているか晴れているかを判断できます。また、たいいていの場合、地上の天気現象に先だって雲が現われます。衛星画像

により雲の発生・発達・衰弱を見ることで目先の天気予報をすることは可能です。さらには長期的な天候にも影響を及ぼす要素も衛星画像では見られます。熱帯地方で活発に活動する大規模な積乱雲群の存在や、範囲の広い晴天域として亜熱帯高気圧の存在を見ることができます。また、晴天域内では赤外画像で海面温度を知ることができます。これにより海流の動向を知ることができます。これらの積乱雲群、亜熱帯高気圧、海流などは日々の強まり・弱まりはありますが、全体的な位相の動き・変化はゆっくりとしています。長期的な天候に影響を及ぼすものの代表です。

わずかに思いついただけでも衛星画像の中にはこのような意味・用途が詰め込まれています。最近インターネットで衛星画像を提供しているホームページもいくつかありますので、もし見る機会があれば衛星画像を単なる画像というだけでなく、データとして多様な用途を持ったものであるという目でご覧になるとおもしろい発見があるかもしれません。（岸本賢司）